

小林恵智著：提言文『公益人材論の時代に向けて』2025 年 8 月 26 日発表を読む

1. (1) 汎用型 AI を搭載したアンドロイドが社会のあらゆる分野に参入する時代、従来の「労働＝私益追求」という構造は大きく転換するだろう。
(2) 単純作業や定型業務はアンドロイドが担い、一部の優秀な人材は、汎用アンドロイドの知적および運動能力を超える可能性のある創造性・共感性・倫理性を活かす領域へと移行することになる。
(3) この変化は単なる労働市場の再編ではなく、人間生活の根底からの刷新を意味する。私は、その基盤を支える新たな理念として「公益人材論」を提唱する。
2. (1) ここでいう“公益”とは、国家や組織に限定されず、地球環境・人類社会・文化的遺産といった広義の共生的価値を指す。
(2) すなわち、一部の優秀な人材は、自己や家族のみの利益を第一にする存在ではなく、社会全体の調和と持続可能性に寄与する「公益的人材」としての役割を担うことが期待される。
(3) 公益人材論の核心は、
 - ①倫理的弁別力、
 - ②受容的共感性、
 - ③拡散的創造的問題解決力この三位一体的能力の発見と洗練化にある。
4. (1) AI やアンドロイドが計算力・実務遂行力に優れる一方で、
 - ①複雑な倫理的葛藤を解きほぐし、
 - ②他者の感情や文化的背景を汲み取り、
 - ③未来を志向する構想を描けるこれらは、人間に固有の強みであるだろう。
(2) それ故に、これらを「教育・社会制度」の中心に据えることこそが、“公益人材”形成の第一歩である。
(3) 尚、公益人材は、
 - ①単なる「主観的善意の奉仕者」ではなく、
 - ②社会変革を人類益、即ち“地球意識”を駆動する主体であり、
 - ③気候変動・人口減少・資産・収入・教育・日常生活の格差拡大といった人類的課題に対し、AI と協働しつつ持続的な解決策を提示する主導的思考行動が求められる。
(4) 尚、ここで重要なのは、
 - ①公益が一方的に与えられるものではなく、
 - ②相互的な信頼と共感に支えられた「共創の営み」であるという認識である。

③言い換えれば、「自助・共助・公助」の個体別調整の必要性である。

5. (1) 故に、教育・企業・自治体・国際機関は

①いずれも、今後の人材育成の指標を「公益的価値の創出」へと転換しなければならないし、

②その“評価軸”を短期的利益や効率性に限定するのではなく、

③長期的視野で社会的・環境的に良質な影響を生み出す地球意識を重視すべきである。

(2) 10年以内に起こる可能性が70%ある『AI時代』の到来は、

①人間を不要にするのではなく、

②むしろ「公益を担う存在」としての人間の意味を鮮明にするだろう。

③それは、これまで続いてきた700万年前を起点として、ここ1万年程度続いてきた「自己中心的な労働社会」から「公益的生活社会へ」と移行する分岐点に立っている事を意味する。

(3) 末筆になるが、未来の世代に向け、人間らしさを昇華させた「公益人材論」の実践を急務として提言する。

小林恵智(慧智)

Dr.Keichi Kobayashi,PhD.,Ed.D.,M.D.

活人禅宗国際禅堂 師家

NPO 法人ヒューマンサイエンス研究所理事長

Ask the Mother-Earth

NGO 伊豆ユネスコクラブ代表幹事

<コメント>

小林恵智氏の、未来社会、未来の子どもたちに向けた提言です。現代社会の抱える課題は何か、それをどのように解決したらよいのかを考え、行動をする「指針」となる「提言文」と考えます。

一度、先生のお名前で検索。様々な分野でのご発言や、お教えを、ご参照ください。

ご著書も50冊以上あります。

2025年8月26日(火) 19時18分